

スリー アール

3 R 大作戦



私たちの生活は、石油をはじめとする地下資源や、動植物などの生物資源によって支えられています。これらの資源は限りあるものであって、大量生産、大量消費、大量廃棄という使い方をしていくと、いつの日か無くなってしまいます。このため、無駄遣いしないで大切に使うことが求められています。幼稚園や保育所等で使う折り紙や色画用紙なども限りある資源によってつくられています。お部屋に「リサイクルボックス」を置き、「ごみ」として捨てられる使い終わった紙や色画用紙の切れ端等を別の機会に再利用することで、ものを大切に使う気持ちを育みましょう。

◎準備

園のごみ箱や自宅のごみ箱に、まだ使えるものが捨てられていないか確認してみましょう。

準備物：リサイクルボックス（付録P.72）

◎あそびかた

- 1) お部屋にリサイクルボックスを置いて、その意味を説明します。
- 2) 製作などの時に出る紙の切れ端などを、リサイクルボックスに入れます。
- 3) リサイクルボックスに入れたものが何に使えるかを、みんなで考えましょう。

◎ふりかえり

- ・リサイクルボックスを置かないと、紙の切れ端はどうなってしまうでしょうか？
- ・ごみを出さないためにはどうしたらよいのでしょうか？

このあそびの対象

環境教育の視点

もの



有限



ねらい

- 3 Rの生活を意識する。
- 「もったいない」の感覚を持つ。
- 分別して片づけることの気持ちよさを感じる。

年齢

5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

室内

◎発展・応用

お家の人にもリサイクルボックスの活用を伝えましょう。

◎留意点

「買った物は使い切る」「使わないものは入手しない」など、ごみを発生させない考え方を浸透させることが大切です。

コラム 利用してみませんか？ふれあい出張講座

川崎市環境局では、身近な資源物とごみのことについて考える環境教育・学習の取組として、職員が訪問し、資源物とごみの正しい分け方や3Rの大切さなどについて説明する「ふれあい出張講座」を実施しています。お申し込みは各生活環境事業所へ。

<https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000005226.html>



実施例

年齢 4歳児 人数 24人 季節 春・夏・秋・冬 場所 室内

実施内容

◆導入

描き終わった絵の置きっぱなしや、失敗した絵をすぐに捨てたりする姿が目立ち、物を丁寧に扱ってほしいという保育者の思いから、子どもたちと一緒にこの問題を考えたいと思っていた。

◆当日の活動、子どもたちの様子

子どもたちに、落ちていた紙などを見せて、どう感じるか、どうしたら良いかなどを聞いてみた。「もったいない」「せっかく描いたのに」「名前書いた方がすぐに分かるね」などの意見があった。

少し難しいが、SDGsの本なども見せながら、3Rの話も取り入れて子どもたちと一緒に考えた。紙はリサイクルできるということが分かり、リサイクルマークを見たことがあるという子もいた。リサイクルボックスを作り、使い終わった紙を入れることを提案した。使用後の紙は、また他の紙に生まれ変わることを伝えると、とても驚いた様子で、意欲的にリサイクルボックスを活用するようになった。

数日経ち、ごみ箱ではなくリサイクルボックスに入れる習慣ができ、リサイクル意識が見られるが、少し描いただけの紙が入っているなどの様子があった。裏面がまだ描ける紙や、少ししか描いていない紙を子どもたちに見せると、まだ使えるところがあることに気づく子もいて、まだ使えそうな紙は別のボックスに入れることを提案した。

リサイクルボックスと、まだ使えるボックスをみんなで見てみると、リサイクルボックスに入っていたお絵描きを見た子が「かわいい～欲しいな～」と言って、自分はいらないと思っても他の人は欲しいものもあるということに気がついた。欲しいものはもらって大切にしようということになった。

◆ふりかえり

子どもたちと一緒に取り組んでいくことで、子どもたちの興味や意識が高まり、新たなあそびの展開につながり楽しい活動のひとつになっている。クラスノートを通じて保護者へ伝え、家庭での様子を聞きながら、当たり前な行動になり、物を丁寧に扱うということにもつながってほしい。



実施例

年齢 5歳児 人数 25人 季節 春・夏・秋・冬 場所 室内

実施内容

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・園の用務員による、ごみの分別・リサイクルを伝える集会を開催。年長児向けに分かりやすい内容となるよう、視覚的に理解できるよう準備した。「知ってる！プラごみ！だっておうちでやってるもん」という声も聞こえた。
- ・分別の仕方や、なぜ分別が必要なのかを子どもたちに話した。子どもたちは、少し難しい話もきちんと聞いている様子であった。
- ・クラスで出たごみを事前に集めておいて、子どもたちと一緒に「もやせるごみ」「もやせないごみ」「またつかえるかみ」の3種類に分別する。
- ・家庭での分別とは違うため、おうちでは聞きながらやってみよう伝えつつ、視覚的にも分かりやすい内容で子どもたちもやる気を持っていた。その後も担任にどこへ分別すればよいか尋ねる姿も見られた。

◆ふりかえり

ごみの分別について、視覚的に分かりやすく丁寧な説明であったため、子どもたちも関心を持ち理解していた。ごみを捨てる時に、「これはどこに当てはまる？」と、一度考える姿が見られている。今後は環境問題を含めたSDGsの話をしていきたい。また、隣のクラスである4歳児が、5歳児のクラスのごみの分別に興味を示したので、「かみ用ごみ箱」を設置した。



コラム ごみをださない生活と「3R（スリーアール）」

「3R」とは本来、現在の生活様式の基本となる「もの」とのつきあい方を示した3つの「R」という意味の言葉です。

【1つめのRの意味】「リデュース (Reduce)」ごみの発生を抑制すること。

【2つめのRの意味】「リユース (Reuse)」ものを再利用すること。

【3つめのRの意味】「リサイクル (Recycle)」ものを再資源化すること。

中でも一番重要な取り組みが1つめの「R (リデュース)」です。リデュースとは、例えば「必要以上買わない」「過剰包装を断る」「エコバッグを使う」「使いかけで捨てない」「長持ちするものを使う」「詰め替えられる商品を買う」など、ごみとなるものを入手しないことです。このように、リサイクルよりも先にごみを出さない生活にすることが必要です。



かわさき3R推進キャラクター
かわるん

ふろしきラッピング

日本には、古くから何度でも使える包装用の布「ふろしき」があります。ふろしきは色々な大きさや形のものを包装できる大変便利な布です。「ふろしきラッピング」では、ふろしきのかわりにバンダナを使ってものを包んでみます。このあそびを通して、ものを何度も使う習慣やものを大切にすることを育みましょう。

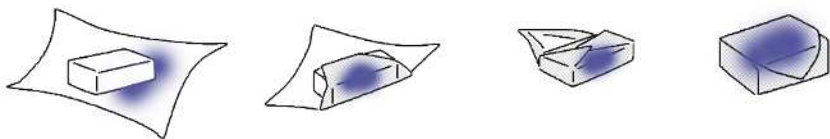
◎準備

- ・室内でできます。
- ・あらかじめふろしきの包み方を調べておきましょう。

準備物：バンダナ、本などの小物

◎あそびかた

- 1) 子どもたちに本など簡単に包めるものを1つずつ渡します。
- 2) バンダナで、渡したものを包んでみます。
- 3) きれいに包めたかどうか、全員で確認します。
- 4) 先生が、包み方の見本（下図）を示します。



このあそびの対象

環境教育の視点

もの



有限



ねらい

- ・工夫しながら包むことの面白さを感じる。
- ・「もったいない」の感覚を持つ。
- ・3Rの生活を意識する。
- ・包む、結ぶという指先の作業を楽しむ。

年齢

季節

場所

5歳

春・夏・秋・冬

室内

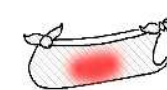
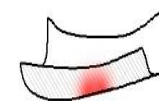
◎ふりかえり

- ・普段ものを包む時は何で包んでいますか？
- ・包装紙やレジ袋を使った場合、使い終わったものはどうするでしょうか？ふろしきを使うとどう変わるのでしょうか？

◎発展・応用

- ・園にある小物や自分のものをふろしきで包んでみましょう。色々な大きさや形のものをふろしきで包むのはきっと新しい発見になるでしょう。
- ・ふろしきを使う日を設けて、ふろしきを使う習慣をつけましょう。
- ・包むだけでなく、バッグとしても使ってみましょう（下図）。

お買いもの包み



- ・参観日や保護者会等で保護者にも伝え、家庭生活と連携していきましょう。

公園ありがとうの日

幼稚園や保育所等では、「みんなのもの」「みんなの場所」を大事にし、お部屋や遊具を毎日整理整頓しています。整理整頓すれば、次に使う時にみんなが気持ちよく思えるからです。

普段保育で使う公園等の身近な自然も、地域にとっては「みんなのもの」「みんなの場所」です。幼稚園や保育所等のお部屋や遊具と同じようにきれいにすることで、みんなが気持ちよく遊ぶことができます。公園等への感謝の意を込めてごみを拾い集め、「みんなのもの」「みんなの場所」として大切に使いましょう。

◎準備

- ・あらかじめ危険なごみが落ちていないか確認しましょう。
- ・地域の道路公園センターに連絡しておきましょう。

川崎区役所道路公園センター	2 4 4 - 3 2 0 6
幸区役所道路公園センター	5 4 4 - 5 5 0 0
中原区役所道路公園センター	7 8 8 - 2 3 1 1
高津区役所道路公園センター	8 3 3 - 1 2 2 1
宮前区役所道路公園センター	8 7 7 - 1 6 6 1
多摩区役所道路公園センター	9 4 6 - 0 0 4 4
麻生区役所道路公園センター	9 5 4 - 0 5 0 5

準備物：ごみの種別がかかれた絵カード、ごみ収集用の袋、手袋

このあそびの対象

もの



有限



環境教育の視点

ねらい

- ・自分の大切な場所やみんなで使う場所はきれいにする意識を育む。
- ・分別して片づけることを楽しむ。
- ・3Rの生活を意識する。

年齢

5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

公園

◎あそびかた

- 1) いつもあそんでいる公園をきれいにすることを伝えます。
- 2) ごみの種別がかかれた絵カードをつけた袋または箱を用意します。
- 3) 時間と場所を区切ってカードにかかれた種類のごみを集めます。
- 4) 集めたごみを絵カードに合わせて分別しながら捨てます。

◎ふりかえり

- ・公園にごみが落ちているのを見た時、どう思いましたか？
- ・ごみを拾い終わった時にはどのように感じましたか？
- ・ごみを捨てないということの大切さを教えましょう。

公園ありがとうの日

◎発展・応用

- ・自分の家や、幼稚園・保育所等がゴミで汚れていたらどう思うか考えてみましょう。
- ・ゴミがあると次に使う人はどのように感じるでしょう。
- ・ゴミ焼却場を見学するとゴミの行方やゴミ自体への関心が高まります。
(川崎環境ポータルサイト施設情報：環境について学び、体験ができる施設を紹介しています。こちらからご覧いただけます。→)

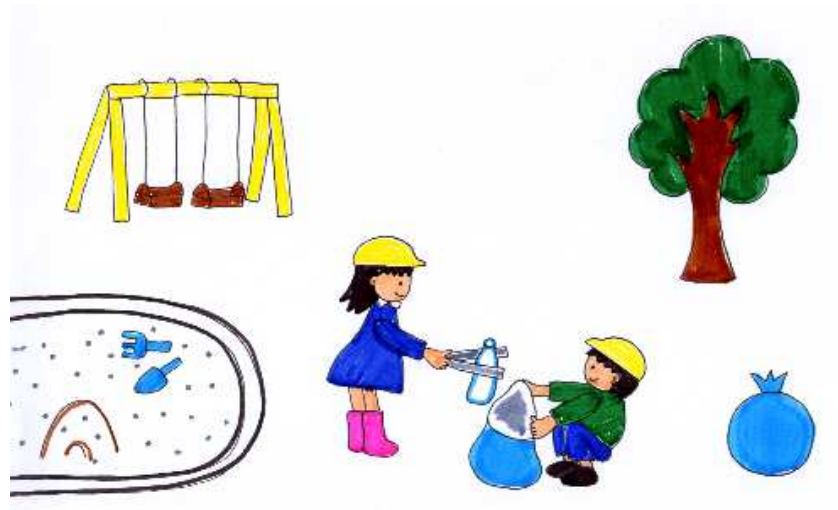
<https://www.portal-env.city.kawasaki.jp/facility/>



◎留意点※

- ・事前に下見に行きましょう。
(下見ポイント：水道はあるか、危険な場所がないか、など)
- ・危険物や不衛生なもの（硝子、たばこ、犬猫の糞など）がないか確認し、あれば回収しましょう。
- ・急傾斜地、地面の状況（水たまりや石、地面のでこぼこなど）には子どもが近づかないようにしましょう。

※「川崎市公立保育所園外保育マニュアル」から抜粋



園内エコライフ

私たちの生活は、限られた資源に支えられて成り立っています。このため、私たちは生活すべてにおいて、この限りある資源を大切にしながら暮らしていかなければなりません。保育を通して、この考え方を子どもたちの中に育てていくことが必要です。「もったいないから電気を消しましょう」「もったいないから水の使い過ぎに注意しましょう」など「もったいない」を意識した保育に取り組みましょう。

「園内エコライフ」は、園内の「もったいない」できごとに気づき、エコ活動を実践していく取り組みです。この取り組みは、できることから取り組むとともに、普段の生活の中で習慣づけることが大切です。幼稚園や保育所等だけでなく、家庭とも連携してすすめていくようにしましょう。

◎ あそびかた

- ・園内でできるエコ活動をクラス全員で考えましょう。
- ・「もったいない」の日を決めてエコ活動に取り組んでもよいでしょう。
- ・部屋の電気の消し忘れがないようにしましょう。
- ・製作活動のあとには、3R大作戦（P.58）のリサイクルボックスを活用しましょう。
- ・砂場で遊んだあとは、バケツに水道の水をためて、汚れた玩具などはこれで洗うように習慣づけましょう。
- ・お弁当や給食はできるだけ残さずに食べましょう。

◎ ふりかえり

エコ活動に取り組んだ後、取り組んでみてどのように感じたかを話し合います。

このあそびの対象

環境教育の視点

もの



有限



ねらい

- ・普段の生活の中から「もったいない」の感覚を育む。
- ・友だちと楽しみながらエコ活動に取り組み、省エネを習慣づける。

年齢

季節

場所

5歳

春・夏・秋・冬

室内

◎ 発展・応用

自宅でもできるように、お便りなどで理解を求めるとともに、協力を促しましょう。

◎ 留意点

エコ活動は、生活習慣として身につけることが大切ですが、その背景となる私たちの地球へのやさしさや配慮、自然とのつながりの意識なども併せて育むことが大切です。

